安全データシート（ＳＤＳ）

1.化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　　同　上
改訂日　　2024/12/10
SDS整理番号　12076250

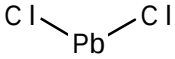
製品等のコード　：　1207-6250、1207-6280

製品等の名称　　：　塩化鉛(Ⅱ)

推奨用途　　：　試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
顔料、合成中間体　など

使用上の制限　　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
- 可燃性固体　：　区分に該当しない
- 自然発火性固体　：　区分に該当しない
- 自己発熱性化学品　：　区分に該当しない
- 水反応可燃性化学品　：　区分に該当しない
- 酸化性固体　：　区分に該当しない

健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）　：　区分4
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分1
- 発がん性　：　区分2
- 生殖毒性　：　区分1A
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分1（血液系、腎臓、神経系）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　区分1（血液系、腎臓、神経系）

環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性)　：　区分1
- 水生環境有害性 長期(慢性)　：　区分1

注意喚起語　：　危険

危険有害性情報
- 飲み込むと有害（経口）
- 重篤な眼の損傷
- 発がんのおそれの疑い
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- 血液系、腎臓、神経系の障害
- 長期又は反復暴露による血液系、腎臓、神経系の障害
- 水生生物に非常に強い毒性
- 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き
【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
漏出物を回収すること。
【保管】
直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	塩化鉛(Ⅱ) （別名）塩化鉛、二塩化鉛(Ⅱ)、ジクロロ鉛(Ⅱ)、鉛(Ⅱ)ジクロリド （英名）Lead(Ⅱ) chloride、Dichlorolead(Ⅱ)、Lead(Ⅱ) dichloride、Lead chloride、Lead dichloride（EC名称）、Lead chloride (PbCl2) （TSCA名称）
成分及び含有量	：	塩化鉛(Ⅱ)、 98.0%以上 鉛（Pb）含量＝98.0×207.2/278.11＝73.0%
化学式及び構造式	：	PbCl2
分子量	：	278.11
官報公示整理番号 化審法	：	(1)-252
安衛法	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	7758-95-4
EC No.	：	231-845-5
危険有害成分	：	塩化鉛(Ⅱ)

4.応急処置

吸入した場合	：	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：	直ちに医師に連絡する。 直ちに、流水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外して洗うこと。洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	直ちに口をすすぎ、うがいをする。吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないよう、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状：		無機鉛の吸入もしくは経口摂取により口内の収斂、渇き、消化器への影響として吐き気、嘔吐、上腹部不快感、食欲不振、腹痛、便秘などを引き起こす。造血機能への影響は無機鉛の代表的な作用であり、δ-アミノレブリン酸及びヘム合成酵素の阻害に起因したヘモグロ

ビン合成阻害、赤血球寿命の短縮による貧血が認められている。

5.火災時の措置

適切な消火剤 ： この製品自体は燃焼しない。
消火剤の限定はない。
周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。
粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水

使ってはならない消火剤： 棒状放水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）

特有の危険有害性 ： 火災中に刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。

特有の消火方法 ： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護 ： 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。

環境に対する注意事項 ： 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。

回収、中和 ： 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法・機材
： 危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策 ： 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策 ： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
粉じんの堆積を防止する。

局所排気・全体換気 ： 取扱場所には除じん装置と局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設置する。

安全取扱い注意事項 ： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

接触回避 ： 湿気、水、高温体との接触を避ける。

保管

技術的対策 ： 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。

保管条件 ： 直射日光や高温多湿を避けて保管する。
容器を密閉して冷暗所に保管する。
一定の場所を定めて、施錠して保管する。
貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。

混触危険物質 ： 酸化剤

容器包装材料 ： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度 ： 0.05mg/m3（鉛として）

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会 0.1mg/m3 （鉛として）
ACGIH TLV-TWA 0.05mg/m3（無機鉛化合物として）

設備対策 ： 取扱場所には除じん装置と局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設置する。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸器の保護具 ： 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。

手の保護具 ： 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具 ： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具： 長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策 ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。

9．物理的及び化学的性質

物理状態
性状 ： 粉末
色 ： 白色
臭い ： データなし
pH ： 酸性（水溶液）
融点 ： 501℃
凝固点 ： データなし
沸点 ： 950℃
引火点 ： 引火性なし
可燃性 ： 不燃性
爆発範囲 ： 爆発性なし
蒸気圧 ： 0.233Pa(400℃)
相対ガス密度（空気 = 1） ： データなし
密度又は相対密度 ： 5.91
比重 ： データなし
溶解度 ： 水にやや溶ける（1.08g/100g、25℃)。
オクタノール/水分配係数 ： 1.35
発火点 ： 発火性なし
分解温度 ： データなし
粘度 ： データなし
動粘度 ： データなし
粒子特性 ： データなし

ＧＨＳ分類
可燃性固体 ： 本品は不燃性（HSDB,2006）であることから、区分に該当しないとした。

自然発火性固体 ： 本品は不燃性（HSDB,2006）であることから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品 ： 本品は不燃性（HSDB,2006）であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品 ： 金属(Pb)を含むが、水溶解度が1.08g/100g(25℃)(Lide(84th,2003)であり、水に対して安定であると考えられるので、区分に該当しないとした。
酸化性固体 ： 国連危険物輸送勧告では、塩化鉛(II)については国連番号2291（鉛化合物、水溶性)、クラス・区分が 6.1 であることから、区分に該当しないとした。

10.安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）
： 通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性 ： 酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件 ： 高熱、日光
混触危険物質 ： 酸化剤
危険有害な分解生成物： 火災時に加熱されると分解して有毒なハロゲン化物や鉛酸化物のフュームを放出する。

11．有害性情報

急性毒性 ： 経口 モルモット LD50=2000 mg/kg (IARC 23 (1980))
飲み込むと有害（経口）（区分4）
経皮 分類できない。
吸入（蒸気） 分類できない。
吸入（粉じん）分類できない。
皮膚腐食性/刺激性 ： 分類できない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：
HSDB (2006) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果、「moderate purulent reaction and general inflammation of the eye (中等度の化膿性の反応および、一般的な炎症)」がみられたことから、化膿性の反応の原因として組織の壊死が起こっていたと考え、区分1とした。
重篤な眼の損傷 （区分1）
呼吸器感作性： 分類できない。

皮膚感作性： 分類できない。
生殖細胞変異原性： 分類できない。
DFGOTvol. 17 (2002)の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞/体細胞in vivo変異原性試験なし、生殖細胞/体細胞in vivo遺伝毒性試験なし、in vitro変異原性試験で複数指標の（強）陽性結果なし、であった。
発がん性： NTP (2005)でＲ、IARC (1987)でGroup ２Ｂ、ACGIH (2001)でＡ３、日本産業衛生学会で２Ｂに分類されていることから、区分２とした。
発がんのおそれの疑い（区分2）
生殖毒性： 鉛はヒトで、発生神経毒性物質、生殖毒性物質として知られていることから、区分１Aとした。
生殖能または胎児への悪影響のおそれ （区分1A）
特定標的臓器毒性（単回ばく露） ： 本物質については、無機鉛化合物の影響を基に分類するものとする。
無機鉛化合物の毒性として、ヒトについては、「無機鉛の急性影響及び慢性影響はほぼ同様の症状が認められている。無機鉛の吸入もしくは経口摂取により口内の収斂、渇き、消化器への影響として吐き気、嘔吐、上腹部不快感、食欲不振、腹痛、便秘などを引き起こすと報告されている。造血機能への影響は無機鉛の代表的な作用であり、δ-アミノレブリン酸及びヘム合成酵素の阻害に起因したヘモグロビン合成阻害、赤血球寿命の短縮による貧血が認められている。腎臓への影響として間質性腎障害(interstitial nephropathy)、尿量減少のほか、蛋白尿、血尿、尿円柱、糖尿及びアミノ酸尿などに代表されるFanconi 症候群を呈する近位尿細管障害が報告されている。無機鉛は末梢神経系に作用し、特に四肢の筋の虚弱、疼痛、痙攣が認められている。また、成人においては非常にまれであるが、極めて高濃度(詳細不明)の暴露を受けた場合、運動失調、頭痛、知覚異常、抑うつ、昏睡などの中枢神経系への影響が認められている。しかしながら、中枢神経系への影響は、特に小児において感受性が高く、落ち着きがない、攻撃的性格、集中困難、記憶力低下などを伴う症状が米国で問題となっている。」（CERIハザードデータ集 2001-9 (2002)）の記述があることから、血液系、腎臓、神経系が標的臓器と考えられた。
以上より、区分1（血液系、腎臓、神経系）とした。
血液系、腎臓、神経系の障害（区分1）
特定標的臓器毒性（反復ばく露） ： 本物質については、無機鉛化合物の影響を基に分類するものとする。
無機鉛化合物の毒性として、ヒトについては、「無機鉛の急性影響及び慢性影響はほぼ同様の症状が認められている。無機鉛の吸入もしくは経口摂取により口内の収斂、渇き、消化器への影響として吐き気、嘔吐、上腹部不快感、食欲不振、腹痛、便秘などを引き起こすと報告されている。造血機能への影響は無機鉛の代表的な作用であり、δ-アミノレブリン酸及びヘム合成酵素の阻害に起因したヘモグロビン合成阻害、赤血球寿命の短縮による貧血が認められている。腎臓への影響として間質性腎障害(interstitial nephropathy)、尿量減少のほか、蛋白尿、血尿、尿円柱、糖尿及びアミノ酸尿などに代表されるFanconi 症候群を呈する近位尿細管障害が報告されている。無機鉛は末梢神経系に作用し、特に四肢の筋の虚弱、疼痛、痙攣が認められている。また、成人においては非常にまれであるが、極めて高濃度(詳細不明)の暴露を受けた場合、運動失調、頭痛、知覚異常、抑うつ、昏睡などの中枢神経系への影響が認められている。しかしながら、中枢神経系への影響は、特に小児において感受性が高く、落ち着きがない、攻撃的性格、集中困難、記憶力低下などを伴う症状が米国で問題となっている。」（CERIハザードデータ集 2001-9 (2002)）の記述があることから、血液系、腎臓、神経系が標的臓器と考えられた。
以上より、区分1（血液系、腎臓、神経系）とした。
長期又は反復ばく露による血液系、腎臓、神経系の障害（区分1）
誤えん有害性 ： 分類できない。

12．環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性)：
甲殻類 ネコゼミジンコ属 48時間LC50=0.28mg/L（ECETOC TR91、2003）から区分1とした。
水生生物に非常に強い毒性（区分1）
水生環境有害性 長期(慢性)： 急性毒性が区分1、金属化合物であり水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）
残留性・分解性 ： データなし
生物蓄積性 ： データなし
土壌中の移動性 ： データなし

オゾン層への有害性 ： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物 ： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）固化隔離法
セメントと混合して固化する。溶出試験を行い、溶出量が判定基準以下であることを確認後、埋立処分する。

汚染容器及び包装 ： 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号： 151

国際規制
海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）
UN No. ： 2291
Proper Shipping Name ： LEAD COMPOUND,SOLUBLE
Class ： 6.1（毒物）
Sub risk ： ー
Packing Group ： III
Marine Pollutant ： Yes（該当）
Limited Quantity ： 5kg
航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）
UN No. ： 2291
Proper Shipping Name ： Lead compound, soluble
Class ： 6.1
Sub risk ： ー
Packing Group ： III
国内規制
陸上規制情報（毒劇法、道路法の規定に従う）
海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）
国連番号 ： 2291
品名 ： 鉛化合物（水溶性）
クラス ： 6.1
副次危険 ： ー
容器等級 ： III
海洋汚染物質 ： 該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 ： 非該当
少量危険物許容量 ： 5kg
航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）
国連番号 ： 2291
品名 ： 鉛化合物(水溶性)
クラス ： 6.1
副次危険 ： ー
等級 ： III
少量輸送許容物件許容量 ： 10kg

特別の安全対策 ： 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。
車輌等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15.適用法令

労働安全衛生法 ： 名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号　第411号「鉛及びその無機化合物」、対象重量%は≧0.1）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号　第411号「鉛及びその無機化合物」、対象重量%は≧0.1）
（令別表第９）
（注）令和7年4月1日以降、政令番号：令別表第９の第23号に変更

鉛等（鉛化合物）（鉛中毒予防規則）
作業環境評価基準「鉛及びその化合物」
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の
使用義務物質「皮膚刺激性有害物質（eye(注)）」
「塩化鉛（ＩＩ）、対象重量%は≧1」
（安衛則第594条の2）
（注）「eye」の記載があるものは「眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性」のみ区分１に該当し、かつ、皮膚吸収性有害物質にも該当しないため、眼に対する保護具の使用のみ必要な化学物質です。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) ：
・種　　別　「特定第1種指定化学物質」
・政令番号　「1-353」
・管理番号　「679」
・政令名称　「鉛及び鉛化合物」

消防法 ： 非該当
毒物及び劇物取締法 ： 劇物「鉛化合物」（指定令第２条第１項第７７号）、 包装等級III
船舶安全法 ： 毒物類・毒物（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法 ： 毒物類・毒物（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）
大気汚染防止法 ： ばい煙（有害物質）（政令第1条第4号）
「鉛及びその化合物」
水質汚濁防止法 ： 有害物質（政令第2条第4号）
「鉛及びその化合物」 〔排水基準〕0.1mg/L (Pb)
〔浄化基準〕0.01mg/L (Pb)
土壌汚染対策法 ： 第２種特定有害物質（政令第1条第19号）
「鉛及びその化合物」 〔土壌溶出量基準〕0.01mg/L(Pb)
〔土壌含有量基準〕150mg/kg(Pb)
輸出貿易管理令 ： キャッチオール規制（別表第1の16項）
HSコード：2827.39
第28類 無機化学品
・輸出統計番号（2024年1月版)：2827.39-000
「塩化物、塩化酸化物、塩化水酸化物、臭化物、臭化酸化物、よう化物及びよう化酸化物
－その他の塩化物：その他のもの」
・輸入統計番号（2024年4月1日版)：2827.39-990
「塩化物、塩化酸化物、塩化水酸化物、臭化物、臭化酸化物、よう化物及びよう化酸化物
－その他の塩化物：その他のもの
－2 その他のもの：その他のもの」

16.その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：
本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施錠、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献 ：

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版

化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。